

称号及び氏名 博士(看護学) 今戸 美奈子

学位授与の日付 平成24年9月30日

論文名 慢性閉塞性肺疾患患者の呼吸困難のセルフマネジメント評価尺度
の開発
Development of a dyspnea self-management evaluation scale for
patients with chronic obstructive pulmonary disease

論文審査委員 主査 檜木野 裕美
副査 篠持 知恵子
副査 垣本 和宏
副査 松尾 ミヨ子

論文内容の要旨

【研究目的】

慢性閉塞性肺疾患(COPDとする)患者において、呼吸困難のコントロールは疾患管理上の重要な目標の一つである。COPDの呼吸困難は、薬物療法や呼吸リハビリテーション、酸素療法による改善が証明されているが、完全に取り除くことは難しい。そのためCOPD患者には、日常生活で自ら呼吸困難のセルフマネジメントの獲得に向けた支援が必要である。

一般的に慢性疾患患者のセルフマネジメントとは、個人が疾患や症状の影響をコントロールするための課題を実行することであり、その実行には問題解決や資源の利用、医療者とのパートナーシップ形成といった行動や技能が必要とされる。COPD患者においても、呼吸困難を日常生活上の問題と捉えると、呼吸困難をコントロールする効果的な手段を識別し、実行することは問題解決のプロセスと考えることができる。そこで、本研究では問題解決を基盤としたCOPD患者の呼吸困難のセルフマネジメントを評価する尺度の開発を目的とした。

【研究方法】

本研究は、尺度原案の作成、尺度原案の精選、尺度項目の決定及び信頼性・妥当性の検証の3段階で構成されている。

1. 尺度原案の作成：COPD患者の呼吸困難のセルフマネジメントについて、概念分析及び文献検討、7名のCOPD患者のインタビューによる質的研究に基づき、D'Zurillaによる問題解決のプロセスを基盤とした7つの下位概念、60項目からなる尺度原案を作成した。回答形式は4件法、高得点ほどセルフマネジメントが良いとした。

2. 尺度原案の精選：調査1では、COPD患者に関わる専門家10名を対象に、尺度の概念の定義と項目間の関連性についての4段階評価(Item-Content Validity Index; I-CVI)と内容の過不足や項目の表現に関する意見を得る自記式質問紙による調査を実施した。
調査2では、COPD患者30名を対象に、尺度原案と個人特性の自記式質問紙への回答と回答後の尺度項目の内容と表現の適切さ等に関する面接調査を実施した。調査1・2から内容妥当性・表面妥当性を検証し、尺度原案の項目を修正した。
3. 尺度項目の決定及び信頼性・妥当性の検証：調査3では、COPD患者142名を分析対象に、調査1・2により修正した尺度、個人特性、動作時呼吸困難、問題解決能力、慢性患者のセルフケア能力、日常生活動作、健康関連QOLを調査した。安定性の検証のため、一部対象者には3週間後の再テストを実施した。尺度項目の選定は、項目分析(欠損率、回答分布、項目間相関、妥当性指標との関連、回答安定性)及び探索的因子分析により行った。最終的な尺度の信頼性は、Cronbach's α 及びテスト-再テスト間の相関、Intra-class correlation coefficient; ICCにて検証した。尺度の妥当性は、関連指標との相関、対象特性による群間比較にて検証した。

【研究結果】

調査1：尺度原案のI-CVIは0.67-1.0で、削除基準の0.78未満の項目は8項目、尺度案の内容の過不足に関して29件、項目表現について105件の意見があった。

調査2：30名のCOPD患者は全員男性、平均年齢69.7歳(SD7.4)、対標準1秒量の平均は46.9%(SD15.3)であった。60項目中6項目は完全な回答の偏りを認めた。49件の尺度原案の内容、28件の項目の表現についての意見があった。平均回答時間は11.1分であった。

調査1・調査2の結果により、尺度原案60項目中22項目を削除し、項目内容の変更を含む13項目を追加した51項目の尺度に修正した。

調査3：142名のCOPD患者は、平均年齢71.3歳(SD7.6)で男性が87.3%、対標準1秒量の平均52.4%(SD20.5)であった。項目分析及び探索的因子分析(主因子法、Varimax回転)により39項目を削除し、「非効果的コントロールの回避」、「効果的コントロールの実践」の独立した2下位尺度・12項目の呼吸困難のセルフマネジメント評価尺度を作成した(累積寄与率39.7%)。信頼性としてCronbach's α は、「非効果的コントロールの回避」0.80、「効果的コントロールの実践」0.73で内的整合性を確認した。テスト-再テスト法の相関係数は2下位尺度とも0.6以上、ICCは0.7以上で安定性を確認した。妥当性は、2下位尺度とも問題解決能力と有意な相関を認め、基準関連妥当性があると確認された。また、「非効果的コントロールの回避」は、動作時呼吸困難、日常生活動作、健康関連QOLと有意な相関を認め、併存妥当性が確認された。「効果的コントロールの実践」は、慢性患者のセルフケア能力と有意な相関を認め、併存妥当性が確認された。さらに、呼吸リハビリテーション経験群と未経験群の比較では、「効果的コントロールの実践」得点が未経験群より経験群で有意に高かった。2下位尺度得点を中央値で高低群に分け、対象者を4タイプに分類した。各タイプで呼吸機能や病期に有意な差は認めなかったが、問題解決能力やセルフケア能力、動作時呼吸困難、日常生活動作、健康関連QOLの一部に有意な差を認めた。

【考察】

本研究では、COPD患者の呼吸困難のセルフマネジメント評価尺度の開発を試みた。2下位尺度、計12項目からなる尺度は、計量心理学的な測定基準を満たした、臨床で活用可能な尺度と考えられた。また呼吸困難のセルフマネジメントに関する内容を含む既存の尺度との相違についてみると、既存の尺度は呼吸困難をマネジメントする行動のみに焦点を当て、その実施頻度を尋ねたものである。本尺度では問題解決モデルを基盤としたため、呼吸困難をマネジメントする行動であっても、呼吸困難の程度または問題解決能力と相関する行動のみを選択し、行動を起こす前段階となる呼吸困難のコントロールに対する態度に関する項目も含まれ、非効果的コントロールの回避と効果的コントロールの実践という2側面から、態度と行動をカバーした既存の尺度では捉えられない呼吸困難のセルフマネジメントが評価できると考えられる。この尺度を用いてCOPD患者の呼吸困難のセルフマネジメントの特徴を把握することにより、看護の目標設定や具体的支援の方策を導き出すことが可能と考えられた。

学位論文審査結果の要旨

慢性閉塞性肺疾患 (COPDとする) 患者において、呼吸困難のコントロールは疾患管理上の重要な目標の一つであるため、COPD患者には、日常生活で呼吸困難のセルフマネジメントの獲得に向けた支援が必要である。

本研究の目的はCOPD患者が行っている呼吸困難のセルフマネジメントを評価する尺度を開発することである。本研究は、尺度原案の作成、尺度原案の精選、尺度項目の決定及び信頼性・妥当性の検証の3段階で構成されている。尺度原案は、概念分析及び文献検討、7名のCOPD患者を対象にした質的研究の結果から作成し、D'Zurillaによる問題解決のプロセスを基盤とした7つの下位概念、60項目から構成している。

第2段階の尺度原案の精選では、①COPD患者に関わる専門家10名を対象に、尺度の概念の定義と項目間の関連性、内容の過不足や項目の表現に関する意見を得る自記式質問紙による調査、②COPD患者30名を対象に、尺度原案と個人特性の自記式質問紙への回答と回答後の尺度項目の内容と表現の適切さ等に関する面接調査を実施した。内容妥当性・表面妥当性を検証し、尺度原案60項目中22項目の削除、13項目を追加した51項目の尺度に修正を行った。

第3段階の尺度項目の決定及び信頼性・妥当性の検証では、COPD患者142名を分析対象に、第2段階による尺度、個人特性、動作時呼吸困難、問題解決能力、慢性患者のセルフケア能力、日常生活動作、健康関連QOLの調査、一部対象者には3週間後の再テストを行った。項目分析及び探索的因子分析により独立した2つの下位尺度「非効果的コントロールの回避」、「効果的コントロールの実践」の12項目の尺度を作成した。信頼性としてCronbach's α 係数は、2尺度ともに0.7以上で内的整合性、テスト-再テスト法の相関係数は0.6以上、ICCは0.7以上で安定性を確認した。妥当性は、2尺度ともに問題解決能力と強力な相関があり基準関連妥当性、「非効果的コントロールの回避」は、動作時呼吸困難、日常生活動作、健康関連QOL、「効果的コントロールの実践」は慢性患者のセルフケア能力と有意な相関があり併存妥当性を認めた。さらに、2尺度得点から患者を類型化し、セルフマネジメントの特徴を把握できる可能性を示唆した。以上から、COPD患者の呼吸困難のセルフマネジメント評価尺度は、計量心理学的な測定基準を満たした臨床で活用可能性のある尺度である。

本研究では、尺度開発の段階を非常に丁寧に踏んでおり、慢性療養看護学の実践及び研究に用いることができる有用な尺度を開発している。また、文献検討、研究方法の丁寧な記述、分析方法の適切さ、今後の課題の明確さ、論旨の一貫性があり、優れた論文で看護学研究の発展に寄与する学術的価値を有している。博士(看護学)論文として十分に価値があると審査委員全員一致で認めるものである。